

鳥獣専門指導の設置と人材育成

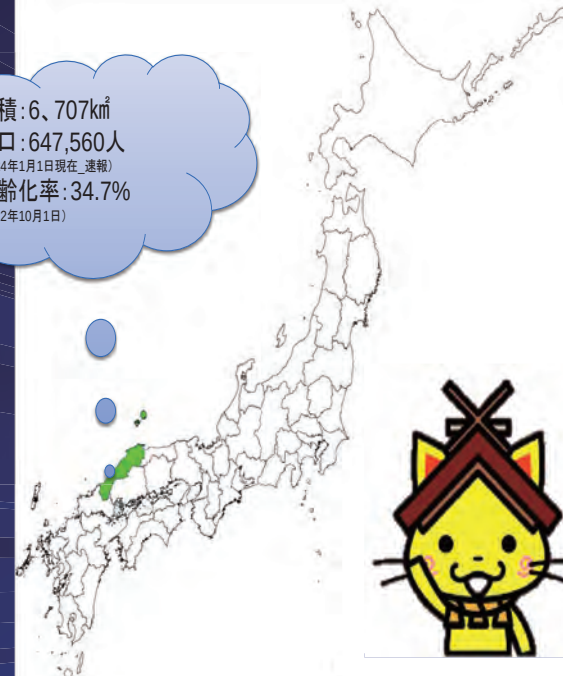
～地域における多様なつながりと連携～



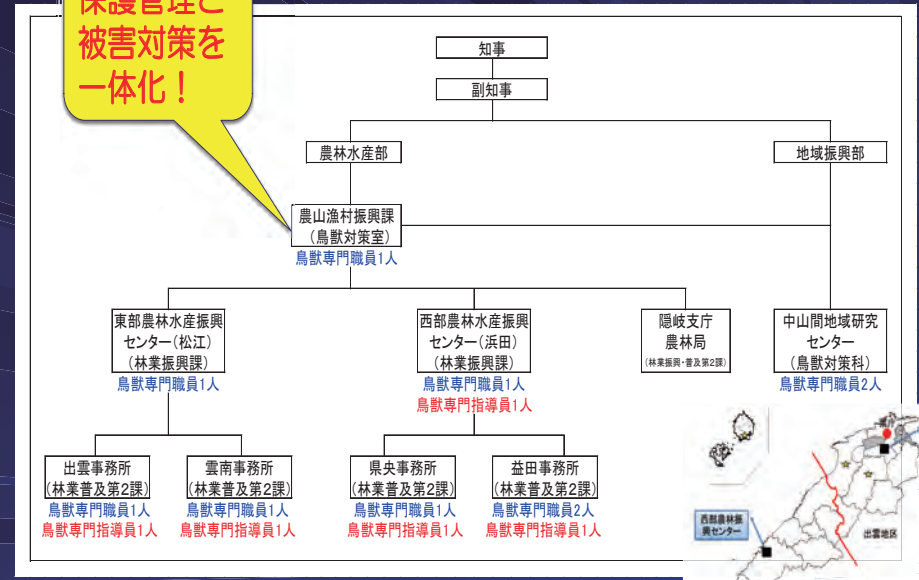
澤田 誠吾

(島根県西部農林水産振興センター県央事務所)

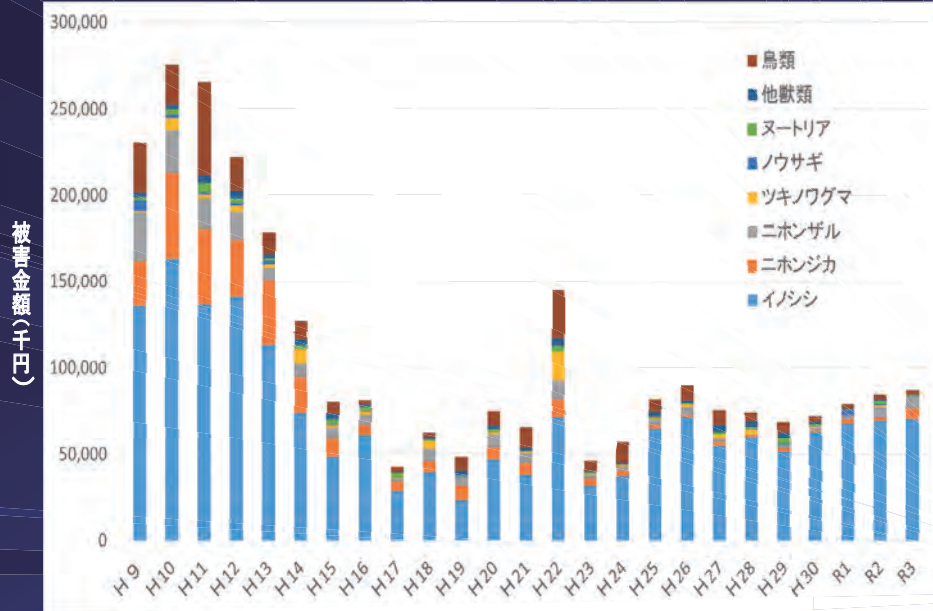
面積: 6,707km²
人口: 647,560人
(2024年1月1日現在_速報)
高齢化率: 34.7%
(2022年10月1日)



保護管理と
被害対策を
一体化!

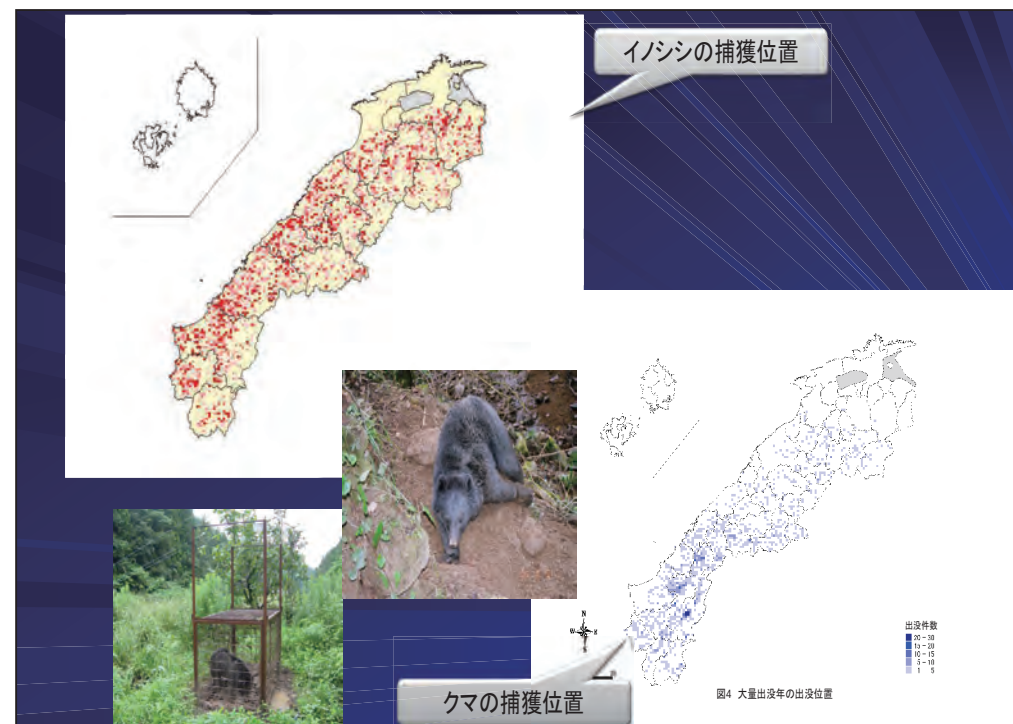


島根県の鳥獣行政の体制



島根県における鳥獣類による被害金額の推移

島根県の専門的な人材育成 鳥獣専門指導員の設置



鳥獣専門指導員を設置した背景①

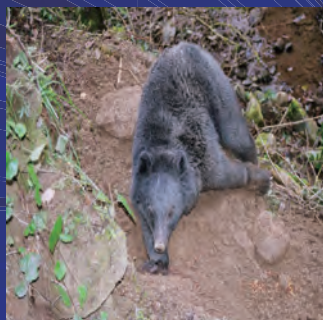
【2004年当初の設置目的】

おもにツキノワグマの保護管理の推進のため。

① 錯誤捕獲個体の放獣作業の技術的能力

② 緊急対応時の正確な判断

③ 普及啓発活動の推進



鳥獣専門指導員を設置した背景②

行政

- ・ 絶滅の恐れのある地域個体群
- ・ クマの保護管理への住民の理解の促進
- ・ 錯誤捕獲されたクマの放獣

現場

- ・ 農林作物・家畜被害や人身被害の発生
- ・ 住民等の人身事故の予防のための対処法等の知識不足
- ・ 農作物等への被害対策についての住民への指導が不足

行政と現場の両方の課題を理解し、クマの被害対策等の知識・技術を持ち、経験に基づいたクマの保護管理を推進できる人材が必要

鳥獣専門指導員を設置した背景③

職員の異動（約3年ごと）

→ 知識・経験がリセットされる

研修会の開催などによって、人材育成に努めてきたが・・・



鳥獣専門指導員（会計年度任用職員）を採用



鳥獣専門指導員の配置状況

鳥獣専門指導員の主な業務内容 （ツキノワグマ）

- ・ 放獣個体の**麻酔作業**、**学習放獣**
- ・ 個体計測や検体摘出等の**モニタリング調査**
- ・ 集落における**誘引物の除去等の指導**
- ・ 巡回指導による既設の防護柵等の点検や**現地指導**
- ・ 市町村職員や地域住民への被害・保護対策の**普及活動**
- ・ 堅果類の**豊凶調査**
- ・ 生息数調査の補助ーカメラトラップ調査



鳥獣専門指導員の活動事例

2016年にクマの大量出没が起き、連日のカキの被害
対応



この地域は、これまでクマによるカキの被害はほとん
ど発生していなかった。。



電気柵・トタン巻きの設置指導、カキもぎ。

⇒住民への電気柵普及

⇒市町担当者職員のスキルアップ

現場対応で浮かび上がる課題



捕獲、被害対策をしても被害が止まらない



空き家のカキ被害は誰が対策をする・・・

高齢者のカキ対策は・・・

カキを伐採したくてもできな・・・

クマ対策検討会

【住民】

クマと人とどちらが大事なんだ！
保護しているからこんなことになる！
事故が起きたらどうする！



【猟師：O氏】

O氏：鳥獣専門指導員と一緒に対策を行っていた。
・トタンを巻いたり、電気柵などの被害防除が一番効果的だった！

今まで捕獲一辺倒だった猟師が対策検討会の場で、このような発言をしてくれたのは総合的な対策の大きな一歩！

・甘力キ：214本 渋力キ：130本 合計344本
⇒伐採：7本 伐採可能な木：27本



検討会后

⇒O氏が中心となり力キの本数と被害木の本数を調査



地域に精通している猟師がやってくれると地域が動く！

⇒鳥獣専門指導員の現場密着の活動による地域との連携

鳥獣専門指導員の役割

当初の目的は、
おもにツキノワグマの保護管理対策



二ホンジカの課題、外来生物の生息拡大
イノシシ、サルによる被害も依然として発生



鳥獣の被害対策の全般に対応



現場での住民（地域）・市町との連携



何でもしてくれる便利屋さん・・・？。

被害対策等の相談，助言，指導，啓発，調査



現場密着の鳥獣専門指導員の必要性

- ・被害発生があれば現場に駆けつけるフットワーク。
- ・現場対応時は市町担当者と一緒にいて情報を共有。
- ・住民－地域－市町－県 → 相互のパイプ役

鳥獣類の被害対策に現地で専門的に対応できる人材の配置等が多様な連携の力ギになると考える。